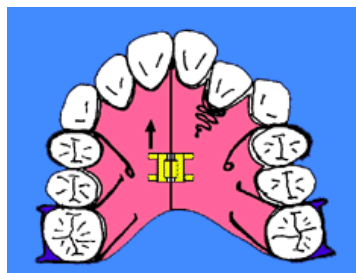


大山矯正歯科の大山です。

今回のテーマは、『 歯列拡大 』についてです。

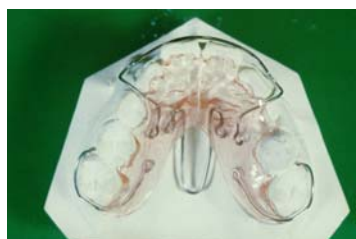
どのような装置を用いて、何時頃の時期に治療を開始したらよいのかをお話していきます。

歯列拡大には、大きく分けて 可徹式のもの と 固定式のもの 2種類に分けられます。可徹式のものには、緩徐型の拡大装置が主となり、拡大ネジによって歯列の側方拡大を行っていく 拡大床(スローエクспанションプレート)が、混合歯列の初期の頃には



使い易いと思われます。使用法としましては、なるべくフルタイムの装着が必要です。ただし、食事や歯磨き 激しい運動や発音が重要な授業などははずしてください！

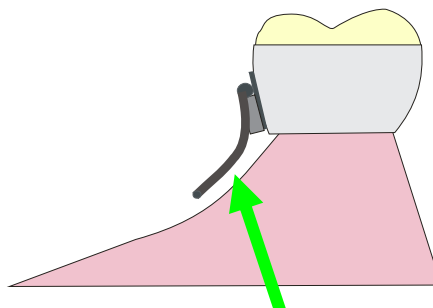
月に1度来院していただくと、拡大ネジを1/4回転(0.2~0.25mm)拡大をしていく物です。



可徹式装置の中には、左写真に示しましたようなコッフィンの破裂床なもので、ゆっくりと拡大することもあります。いずれも混合歯列期の初期の頃使用する事が多い装置です。

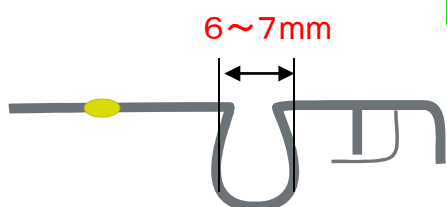
次に、固定式の歯列拡大装置についてお話していきます。

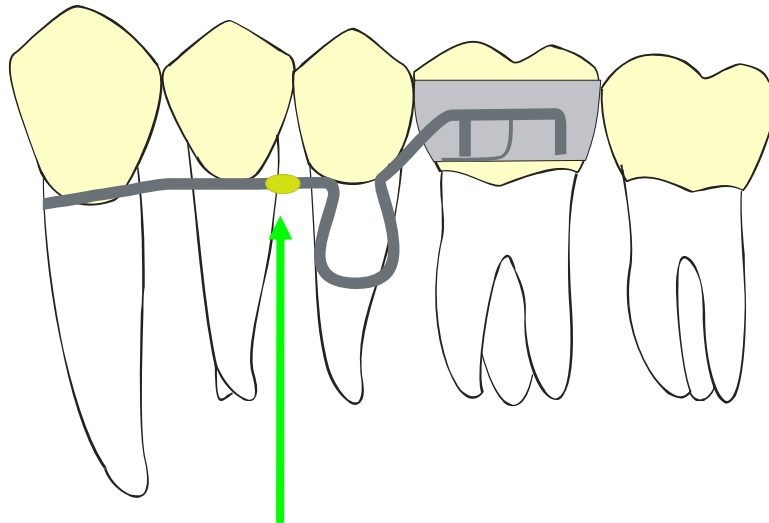
混合歯列期中期から永久歯列まで使う事が出来、また、敷居が低い装置としてループ付きリングアーチがあります。通常のリングアーチのSTロックの部分に、1cm位のループがついたものです。5mm位 側方に拡大したリングアーチを装着するわけですが、拡大する際は、ちょっとした操作(コツ)をしなければいけません。



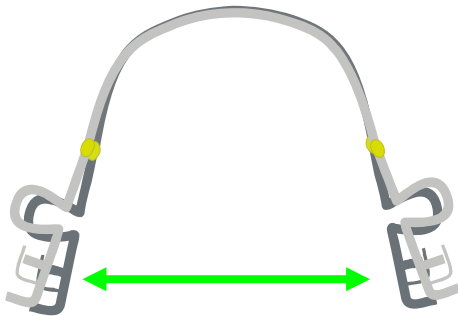
口蓋より 1mm 浮かす

ループの設計

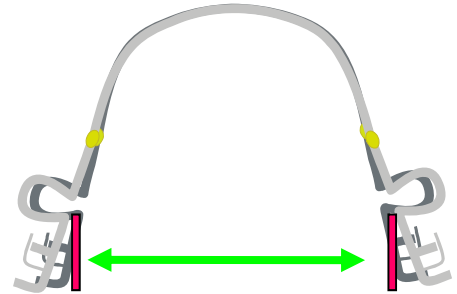




通常ロウ着部位は、4と5の間で行う



側方に拡大する際は、5mm拡大する



その際、大臼歯は近心ローテーションを起こす為、補正する為に、STロック部に遠心ローテーションバンドを組み込む。  
(赤線の様にSTロックを内側に曲げる)

ループ付きリングアーチの設計、ならびに拡大量、拡大した際のSTロックに内側にバンドを入れる事を行なっていくと、緩慢に側方拡大が得られます。

次回も もう少し歯列拡大についてお知らせいたしますので、候ご期待下さい！